

ニ ュ ー ス

第 35 回国際養蜂会議の概要が決定

1997年9月1日(月)～6日(土)の間ベルギー・アントワープの“Congress Centre Zoo”で開催される第35回国際養蜂会議100年記念大会のファーストサーキュラーが届いた。

会議のスケジュールは8月31日に会議登録が始まり、1日に開会式、一般講演の開始、歓迎パーティ、3日養蜂見学旅行、5日閉会晩餐会、6日閉会式となる。会議のメインテーマは「ミツバチと養蜂の歩み」。各分科会でのテーマは以下のものである。

養蜂経済

ミツバチ生産物の消費のゆくえ

ミツバチ生物学

ミツバチと生物多様性：最近の進展

ミツバチ病理学

新しい蜂病の防除法

養蜂植物と花粉媒介

現代農法におけるミツバチ花粉媒介

養蜂技術と器材

ミツバチ生産物の検査法

ミツバチ治療学

ミツバチ生産物：古代療法からミツバチ治療学まで

発展途上国養蜂

21世紀の養蜂開発

参加登録料は全日程参加(6日間)の場合はUS\$240(同伴者US\$150)、API-EXPO'97スタンド料は5000BEF/m²となっている。セカンドサーキュラーの請求先は下記参照。

APIMONDIA

The XXXVth International Apicultural Congress, Corso Vittorio Emanuele 101, I-00186 Rome, ITALY

白岩敏伯氏の逝去

(社)日本養蜂協会の設立や玉川大学でのミツバチ研究開始初期に講師として精励された白岩敏伯氏は、1996年6月10日に逝去された。

本誌12巻4号に「養蜂回顧録」をご寄稿いただいた。

心からご冥福をお祈りしたい。

坂上昭一氏の逝去

多年にわたりミツバチをはじめとした社会性ハナバチ類の研究に従事された北海道大学名誉教授の坂上昭一氏は、1996年11月4日に逝去された。本誌13巻1号に「ハナバチの育兒習性の進化」をご寄稿いただいた。

心からご冥福をお祈りしたい。

玉川大学ミツバチ科学研究施設から

房柱氏, Anderson博士の来訪

中国・連雲港市蜂療病院長の房柱氏は、1996年10月17日に10年振りに来訪。1997年10月に東京で開催される第4回国際蜂療保健蜂針療法学会の概要が説明された。

オーストラリア・CSIRO昆虫学部門でミツバチ病理学と担当しているDenis Anderson博士が1996年10月22日、ベトナムでのAAA大会に続いて、中国と韓国に立ち寄った

後、来訪された。ミツバチヘギイタダニやチョーク病に関する意見交換を行った。

編集後記

長野県安曇総合病院長の佐々木氏には、2月に国立予防衛生研究所のシンポジウムで発表された概要を寄稿いただいた。畜試の木村博士にはミツバチの育種に関する話題を提供いただいた。福岡県畜産試験場でのミツバチ研究を深江氏に解説いただいた。林原生物化学研究所の西尾氏、三翔の山本氏のプロポリスに関する寄稿に感謝したい。(忠)